



木村 亮助教授

僕が学生のとき、先生から言われたのは、“What I say?”での発想から始めるということでした。つまり人がああ言ったこう言ったなんて話より、おまえはどうなんだと問われたのです。それから20年たった今、今度は僕が学生たちにそれを言っています。僕は自称“天国の閻魔大王”。学生は、天国に来られた、と思っても、楽はさせません(笑)。一つ山を越してもすぐ次の山に登らせます。しかし彼らは閻魔大王の審判にへこたれず、自分の頭で考え、自分で研究を組み立てていく能力を持っています。その伸びていくさまが面白いのです。ここは昔の寺子屋のようなもの。対話しながら研究のパートナーとしてお互いが切磋琢磨している場所です。

http://lakers.kuciv.kyoto-u.ac.jp/

僕は現在、木村先生とともに、廃棄物処分場の遮水技術向上を目的に環境地盤工学的な研究に取り組んでいます。わかりやすく言えば、大都市周辺の港湾に廃棄物処分場をつくるための建設技術の開発です。水を漏らさない大きな器を海の中に建設するようすをイメージしてもらえればと思います。

研究を続ける中で、「新材料や新技術は発想の転換から誕生する」という言葉を大切に思っています。

木村先生は何事に対しても常に前向きな姿勢で活動されています。アフリカ諸国の貧困救済計画に携わっておられる話など、工学分野を越えた幅広い活動には、いつも感心の念を抱いています。僕にとって、木村先生は目標とする研究者であり、また教育者でもあります。木村先生からの一番の教えはやはり、ものづくりにおける「発想の転換」ですね。考えたら必ずできると、いつも励まされながらやっています。



稲積 真哉助手



# 人生も研究も、 迫力で取り組め!

「土」の専門家で、エネルギーで行動派の学術さんという話に研究室を訪ねてみれば、いきなりすごいパワーと面白さです。木村先生は、世界中を自転車で旅した自身の体験を交えながら、地盤工学の世界を縦横に語ってくれました。

「この世のあらゆる構造物は土の上につくられているわけですから、安定した都市インフラを築くためには、土の性質や動きを解明しなければなりません。しかしこの分野は現場の経験に負って来たところが多く、まだまだ十分な理論化には至っていません。地面の下の「モグラの世界」を探究し、土木技術の進化を図ろうというのが木村ゼミのテーマです。簡単に言えば、どうしたら穴をうまく掘れるか」といって、構造物の基礎工やト



木村ゼミのみなさん

京都大学大学院  
工学研究科都市社会学専攻  
社会基盤マネジメント工学講座  
土木施工システム分野

ンネル工事を、より安全で低コストに行える技術の研究開発を行っています。学生たちが研究に取り組み際のキーワードは、「発想の転換」です。「過去の技術をなぞったものには意味がない!新しい発想で新しい技術をつくれ!」へりくつ、たれるな!できないと言つな。人生も研究も、迫力で行け!という木村先生の叱咤のもと、土の下から社会を支えている集団です。

## 通称「木村塾」の門下生3人にお話をうかがいました。

**モグラの視点を広く知らせたい**  
「地面の下は目に見えない部分ですが、だからこそ面白いと思えました。それを目に見えるように表現できたら、土木技術も変わってくるはずだと思います。僕のテーマは、橋梁の基礎工の耐震補強です。基礎工の補強というのはなかなか進んでいないのですが、災害を乗り切れる技術を開発して、設計の幅を広げること、結びつけたいと思っています。ここで学んだことを社会に活かす方法はいろいろあります。たとえばベンチャー企業を興したり、政治の世界に進むのも面白いと思います。モグラの視点を広く知らせることは大きな意味のあることです。」



磯部 公一さん  
博士課程1回生

**安全で安いものづくりを追い求めて**  
「僕はあまりマシメな学生ではなかったんですが、夢をかなえるのは根性だという先生のメッセージに魅力を感じました。僕の研究は「トンネル掘削時の地山の挙動の変化」です。うまく理論化できれば実際の施工に応用できるものです。研究成果がすぐ役立つというのが、この研究のやりがいですね。先生は僕たちに次々に高いステップを求めます。これくらいで満足するなもつとやれ、もつと前へ進めという感じでゴールがないんです。僕は研究職に進むつもりですが、この世界で、安全で安いものづくりをずっと追いつけていくことになると思います。木村先生は学生では太刀打ちできない迫力を持ち主ですが、負けずについて行きます。」



菊本 統さん  
博士課程3回生



林 芳樹さん  
修士2回生

### 経験工学を理論化して社会の共有知識に

「僕の研究は“トンネルの座屈”に関するものですが、経験工学に頼っている部分が多く、だれもがわかるための理論の構築が遅れています。理論的に積み重ねて説明し、社会の共有の知識にすることができたらと思います。木村塾で得られるものはたくさんありますが、僕にとってはプレゼンテーション能力が磨かれたのが大きいですね。先生ご自身がとてもいいお手本です。」

7月に行われた建設技術展に参加。新しく開発した建設部材「連結鋼管矢板」を提案。廃棄物の埋立護岸にも利用できる期待の部材です